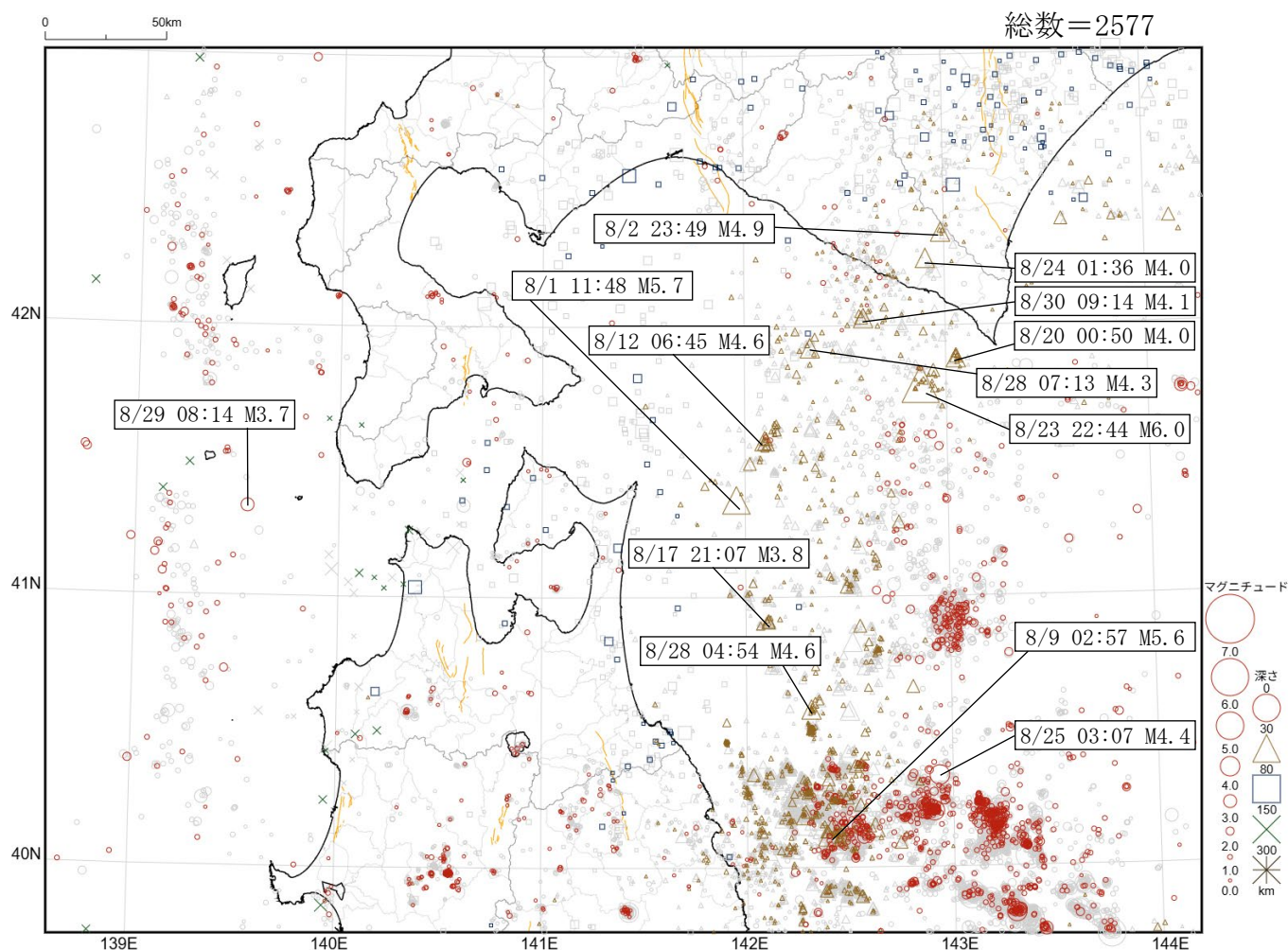


渡島・檜山地方の地震活動図

2026年8月

函館地方気象台

震央分布図



- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

地震概況（2026年8月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点において震度1以上を観測した地震は14回（7月は10回）ありました。主な地震は以下の通りです（詳細は「渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

1日11時48分、青森県東方沖の地震（M5.7、深さ73km）により、函館市泊町、函館市新浜町で震度4を観測したほか、渡島・檜山地方で震度3～1を観測しました。（「主な地震の解説1」参照）。

23日22時44分、浦河沖の地震（M6.0、深さ41km）により、函館市新浜町で震度4を観測したほか、渡島・檜山地方で震度3～1を観測しました。（「主な地震の解説2」参照）。

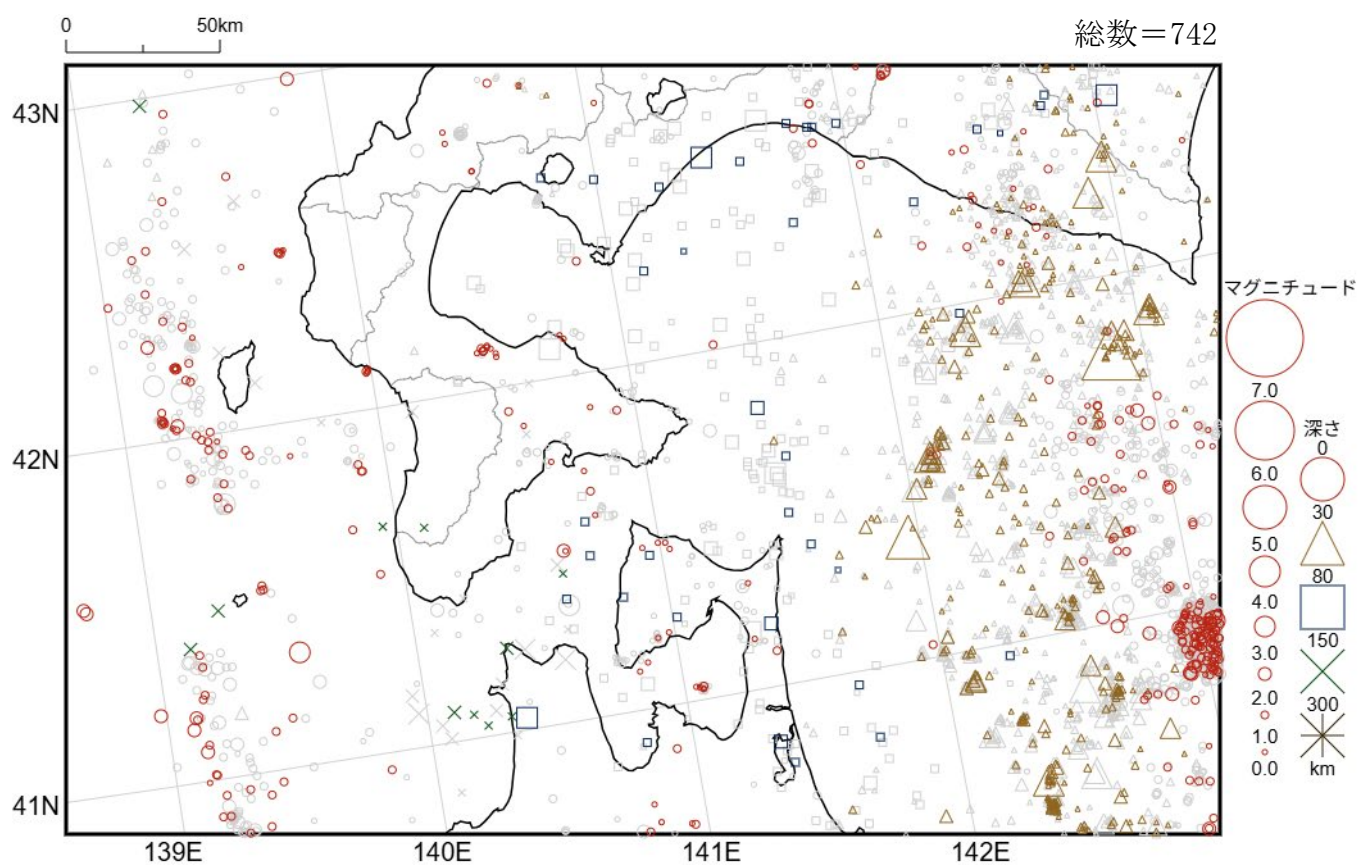
この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hakodate-c/statistics/earthquake-report.html>

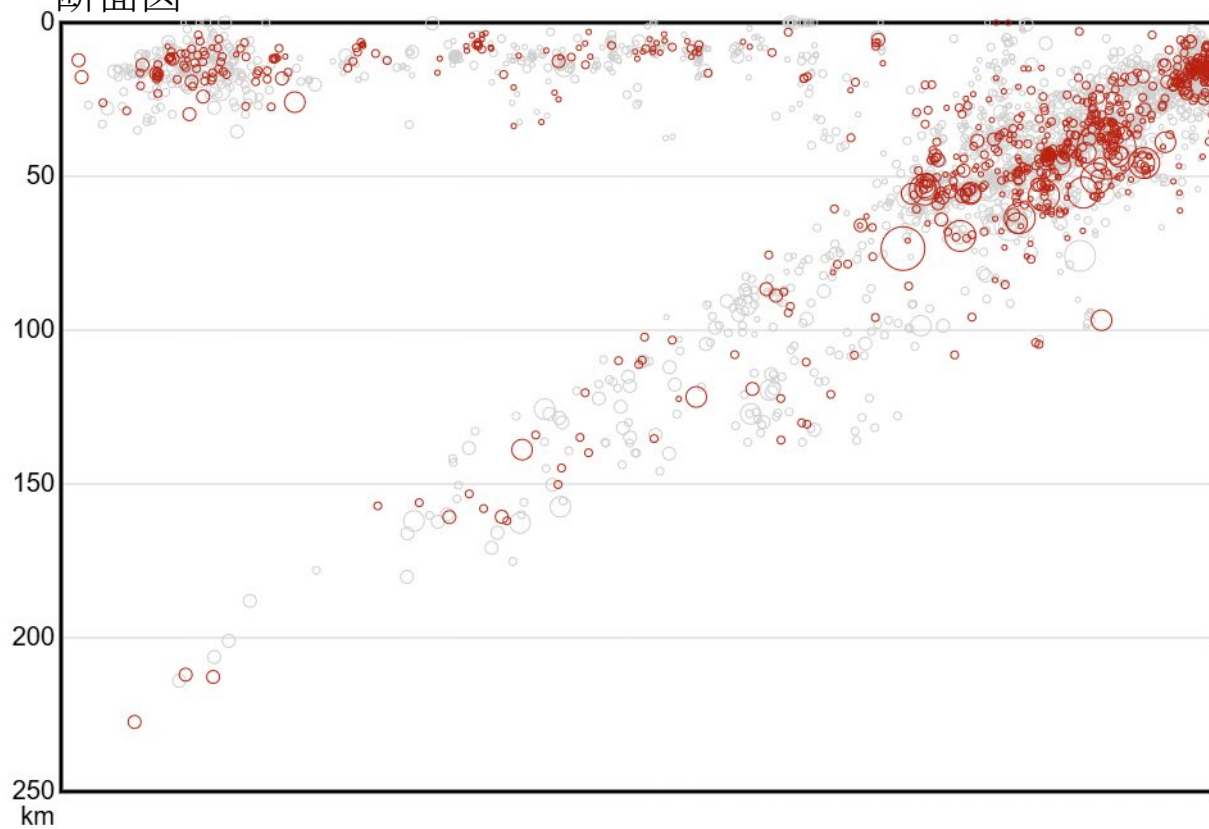
この資料に関する問い合わせ先 函館地方気象台 TEL 0138-46-2211

2026年8月

震央分布図



断面図

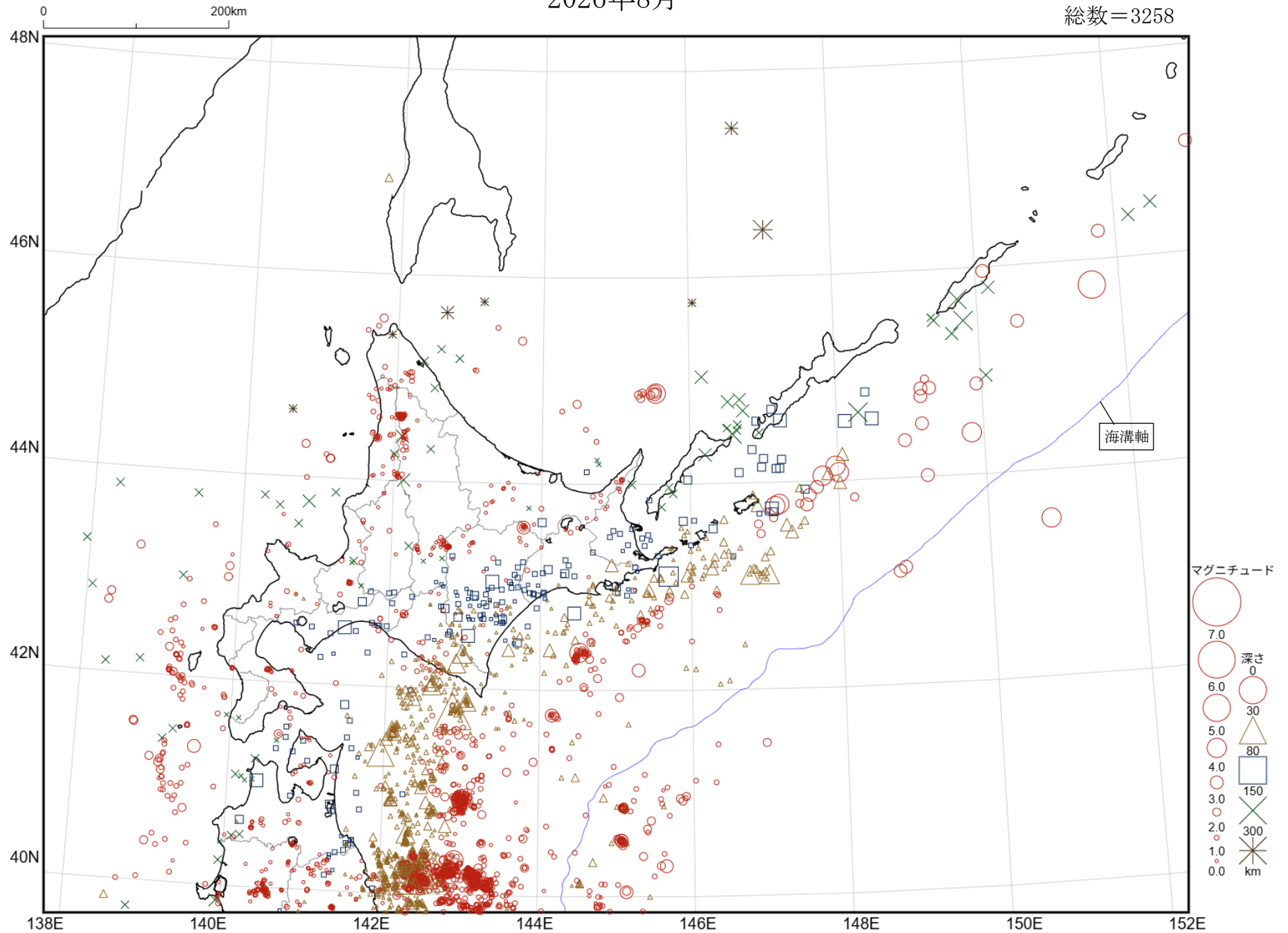


北海道の地震活動図

震央分布図

2026年8月

総数=3258



渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表 (2026年8月)

	年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
1	2026年 8月 1日 渡島地方	11時48分 震度4 震度3 震度2 震度1	青森県東方沖 函館市泊町*(43) 函館市新浜町*(37) 函館市美原(28) 函館市大森町*(25) 函館市日ノ浜町*(32) 七飯町桜町(27) 七飯町本町*(27) 函館市川汲町*(24) 鹿部町宮浜*(22) 渡島森町御幸町(18) 渡島森町上台町*(22) 渡島森町砂原*(23) 渡島北斗市中央*(23) 渡島北斗市本町*(19) 福島町福島*(18) 知内町重内*(17) 木古内町木古内*(19) 八雲町上の湯(09) 八雲町熊石雲石町*(12) 長万部町平里*(14) 渡島松前町福山(07)	41° 21.6' N	141° 57.3' E	73 k m	M5.7
	檜山地方	震度2 震度1	檜山江差町姥神(18) 檜山江差町中歌町*(16) 上ノ国町大留*(15) 厚沢部町木間内*(15) 厚沢部町新町*(23) 乙部町緑町*(18) 上ノ国町小砂子*(07) 今金町今金*(10)				
2	2026年 8月 2日 渡島地方	23時49分 震度2 震度1	日高地方東部 函館市泊町*(18) 函館市新浜町*(21) 函館市川汲町*(13) 七飯町本町*(05) 鹿部町宮浜*(13)	42° 20.6' N	142° 59.0' E	51 k m	M4.9
3	2026年 8月 9日 渡島地方	02時57分 震度2 震度1	岩手県沖 函館市泊町*(23) 函館市新浜町*(22) 函館市日ノ浜町*(17) 函館市美原(13) 函館市大森町*(14) 函館市川汲町*(08) 七飯町桜町(09) 七飯町本町*(08) 渡島北斗市中央*(13) 福島町福島*(08) 知内町重内*(14) 木古内町木古内*(14)	40° 07.7' N	142° 24.6' E	40 k m	M5.6
	檜山地方	震度2 震度1	上ノ国町大留*(16) 檜山江差町姥神(05)				
4	2026年 8月12日 渡島地方	06時45分 震度2 震度1	青森県東方沖 函館市泊町*(15) 函館市新浜町*(09)	41° 34.6' N	142° 05.8' E	54 k m	M4.6
5	2026年 8月17日 渡島地方	21時07分 震度1	青森県東方沖 函館市泊町*(06)	40° 54.7' N	142° 06.6' E	56 k m	M3.8
6	2026年 8月20日 渡島地方	00時50分 震度1	浦河沖 函館市泊町*(06)	41° 52.7' N	143° 03.0' E	46 k m	M4.0
7	2026年 8月23日 渡島地方	22時44分 震度4 震度3 震度2 震度1 震度2 震度1	浦河沖 函館市新浜町*(37) 函館市泊町*(31) 長万部町平里*(18) 函館市美原(17) 函館市大森町*(17) 函館市川汲町*(20) 函館市日ノ浜町*(18) 七飯町桜町(15) 鹿部町宮浜*(19) 渡島森町御幸町(15) 渡島森町砂原*(19) 渡島北斗市中央*(15) 知内町重内*(20) 木古内町木古内*(20) 七飯町本町*(11) 渡島森町上台町*(13) 福島町福島*(13) 上ノ国町大留*(16) 厚沢部町木間内*(15) 厚沢部町新町*(16) せたな町北檜山区徳島*(15) 檜山江差町姥神(07) 檜山江差町中歌町*(07) 乙部町緑町*(13) 今金町今金*(13)	41° 46.9' N	142° 52.4' E	41 k m	M6.0
8	2026年 8月24日 渡島地方	01時36分 震度1	日高地方東部 函館市新浜町*(06)	42° 14.8' N	142° 54.3' E	55 k m	M4.0
9	2026年 8月25日 渡島地方	03時07分 震度1	岩手県沖 函館市泊町*(10)	40° 20.2' N	142° 56.0' E	25 k m	M4.4
10	2026年 8月27日 渡島地方	04時21分 震度1	三陸沖 函館市泊町*(08) 函館市新浜町*(08)	38° 04.2' N	143° 49.8' E	28 k m	M5.8
11	2026年 8月28日 渡島地方	04時54分 震度2 震度1	青森県東方沖 函館市泊町*(15) 函館市新浜町*(07)	40° 35.0' N	142° 18.9' E	56 k m	M4.6
12	2026年 8月28日 渡島地方	07時13分 震度2 震度1	浦河沖 函館市新浜町*(15) 函館市泊町*(10) 函館市川汲町*(06)	41° 55.1' N	142° 19.5' E	69 k m	M4.3
13	2026年 8月29日 檜山地方	08時14分 震度1	北海道南西沖 上ノ国町小砂子*(13)	41° 19.9' N	139° 32.9' E	26 k m	M3.7
14	2026年 8月30日 渡島地方	09時14分 震度1	浦河沖 函館市新浜町*(08)	42° 01.7' N	142° 35.5' E	64 k m	M4.1

*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
() 内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

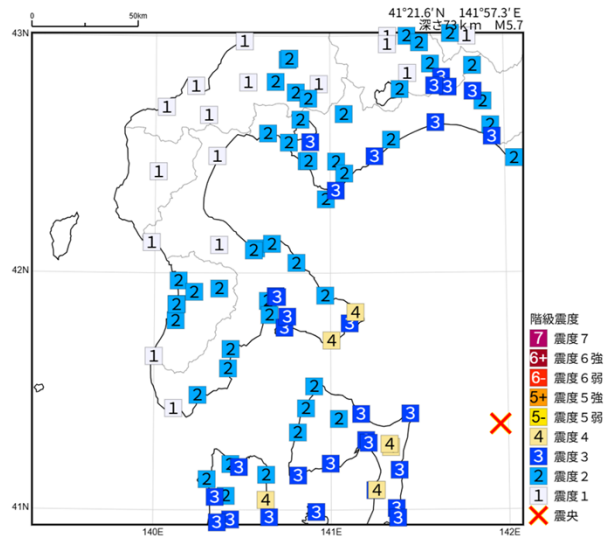
計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

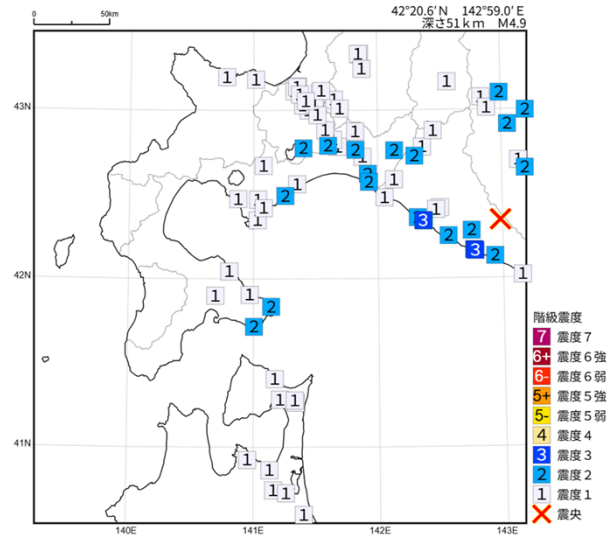
本資料の利用にあたって

- ・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

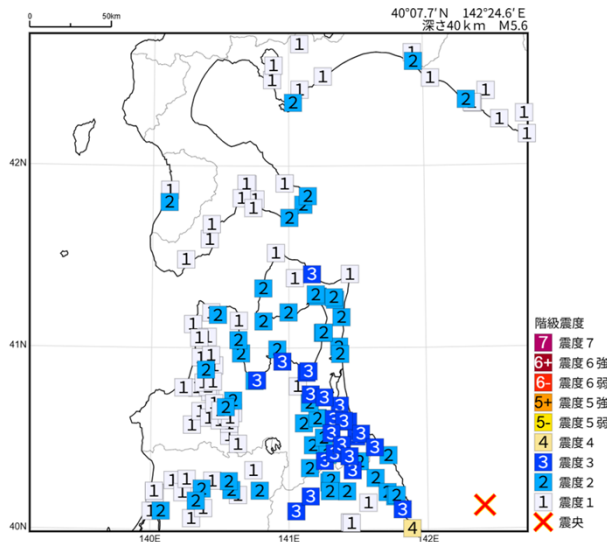
2026年8月1日 11時48分 青森県東方沖の地震の震度分布図



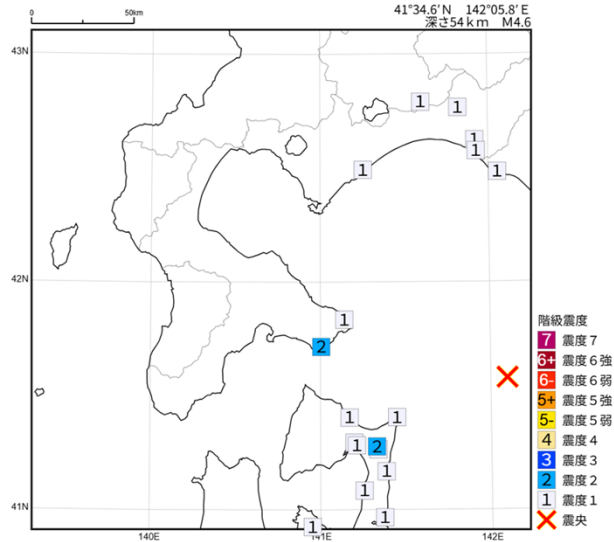
2026年8月2日 23時49分 日高地方東部の地震の震度分布図



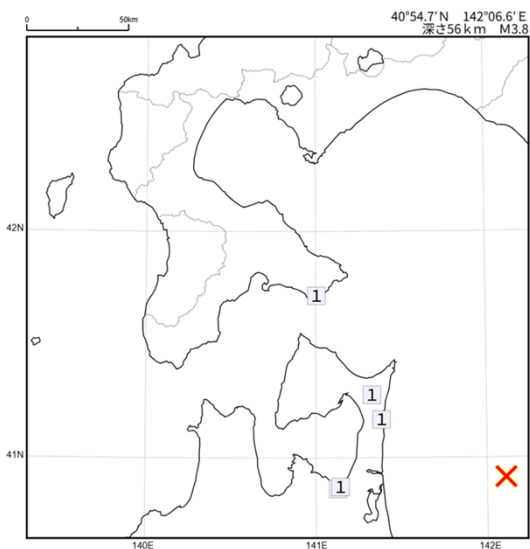
2026年8月9日 02時57分 岩手県沖の地震の震度分布図



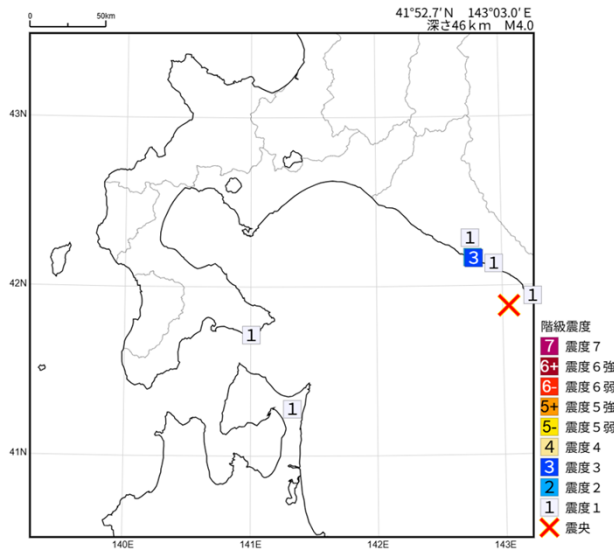
2026年8月12日 06時45分 青森県東方沖の地震の震度分布図



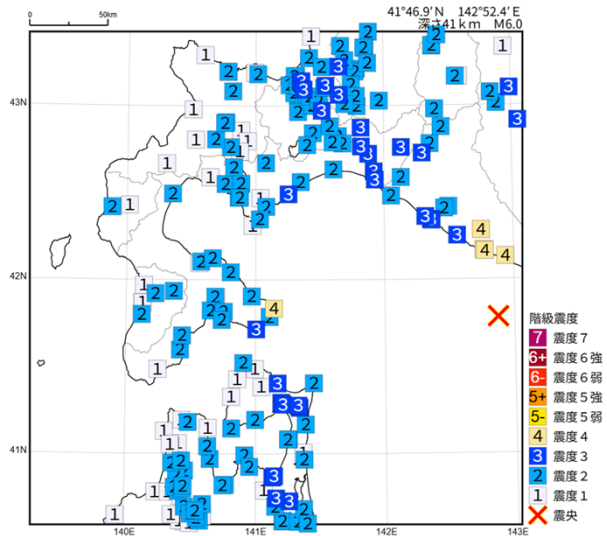
2026年8月17日 21時07分 青森県東方沖の地震の震度分布図



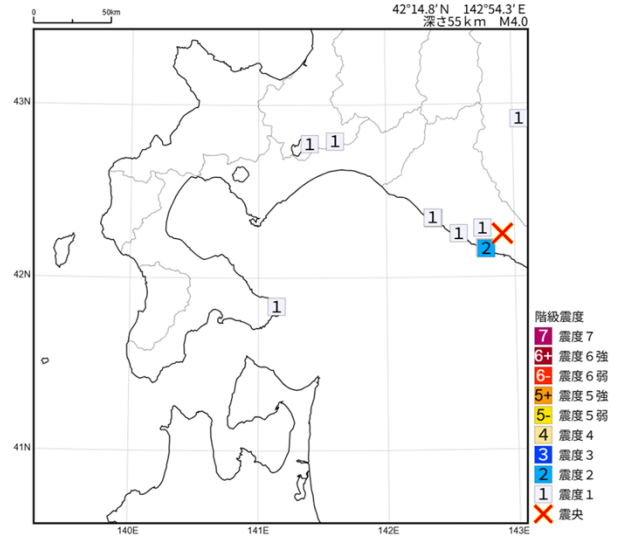
2026年8月20日 00時50分 浦河沖の地震の震度分布図



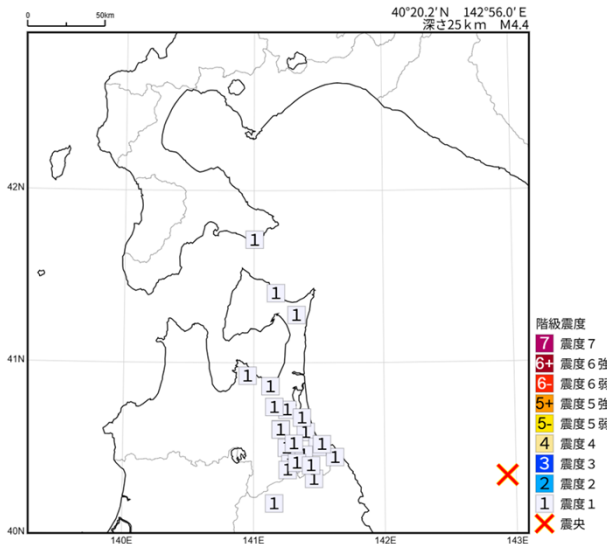
2026年8月23日 22時44分 浦河沖の地震の震度分布図



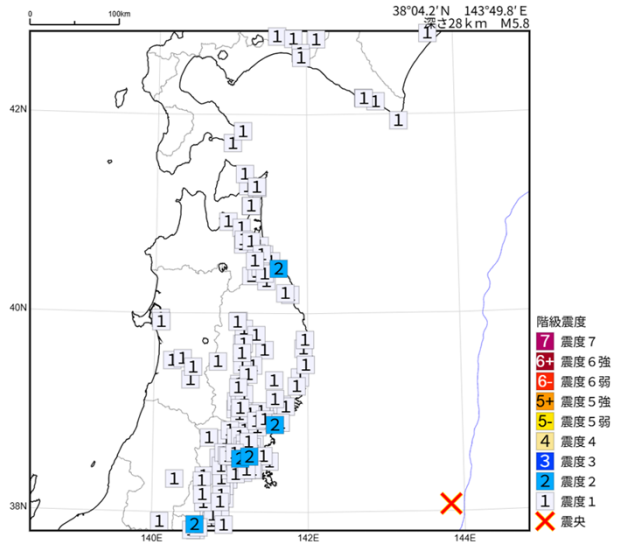
2026年8月24日 01時36分 日高地方東部の地震の震度分布図



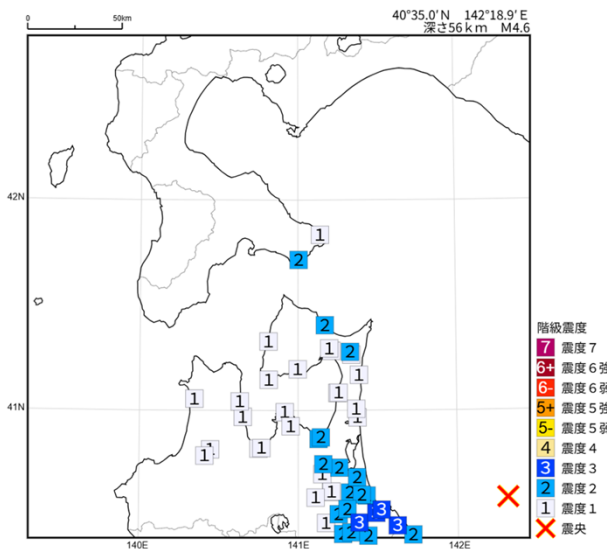
2026年8月25日 03時07分 岩手県沖の地震の震度分布図



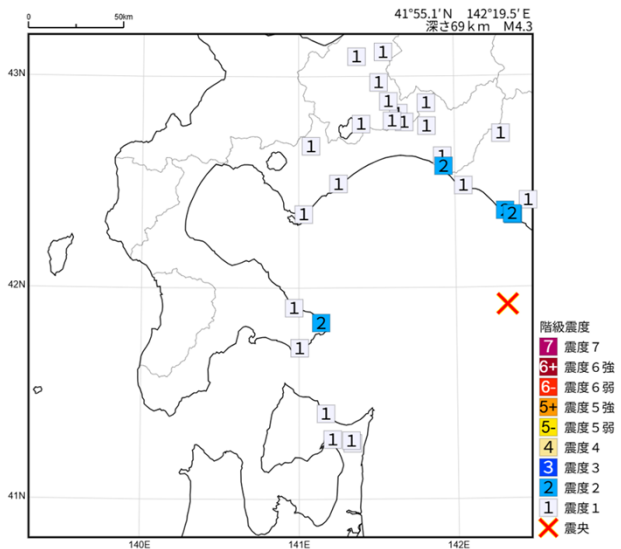
2026年8月27日 04時21分 三陸沖の地震の震度分布図



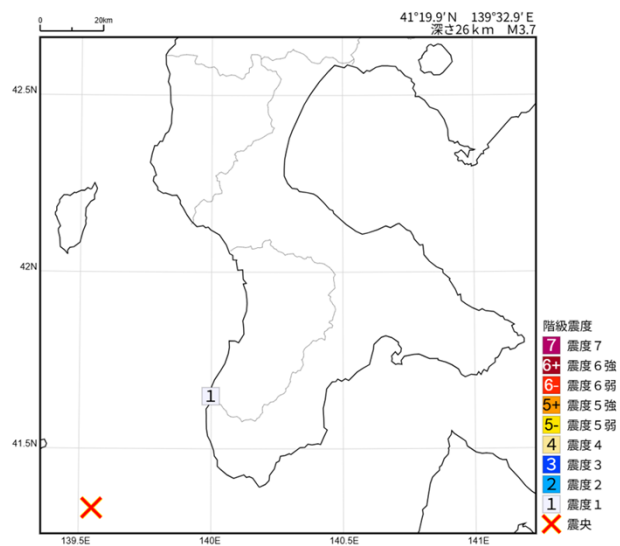
2026年8月28日 04時54分 青森県東方沖の地震の震度分布図



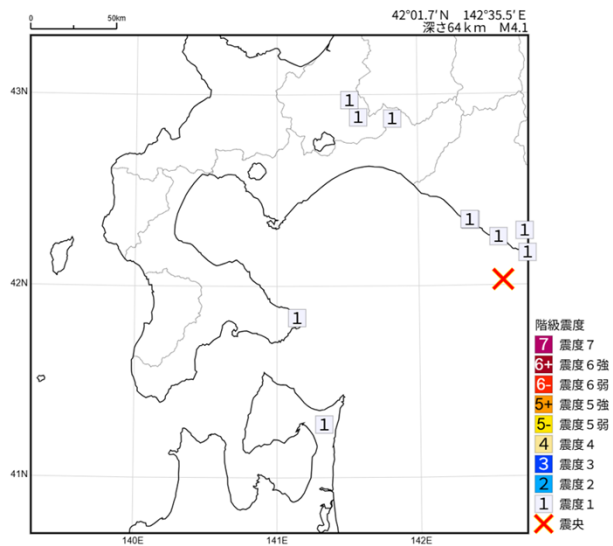
2026年8月28日 07時13分 浦河沖の地震の震度分布図



2026年 8月29日 08時14分 北海道南西沖の地震の震度分布図

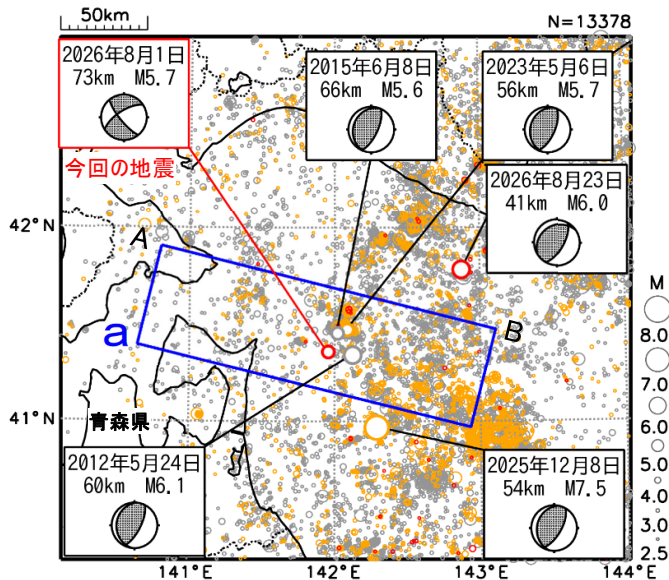


2026年 8月30日 09時14分 浦河沖の地震の震度分布図

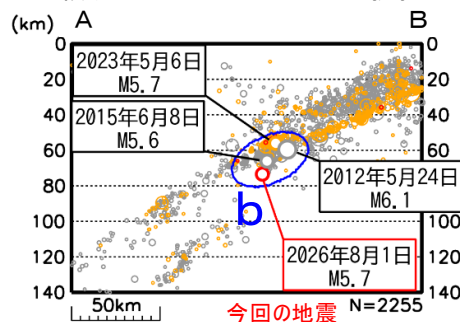


8月1日 青森県東方沖の地震

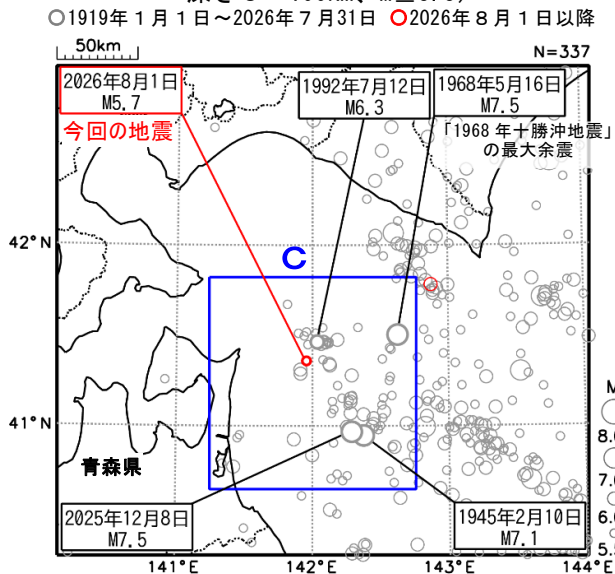
震央分布図
(1997年10月1日～2026年8月31日、深さ0～140km、 $M \geq 2.5$)
○ 1997年10月1日～2020年8月31日 ○ 2020年9月1日～2026年7月31日
● 2026年8月1日以降 図中の発震機構はCMT解を示す



領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



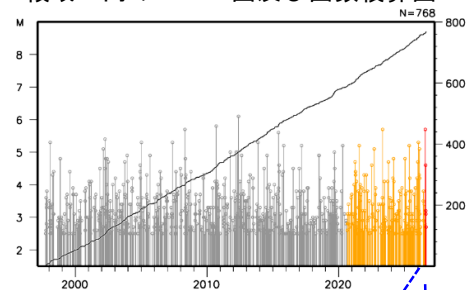
震央分布図
(1919年1月1日～2026年8月31日、深さ0～100km、 $M \geq 5.5$)
○ 1919年1月1日～2026年7月31日 ○ 2026年8月1日以降



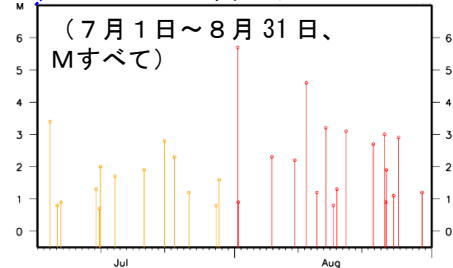
2026年8月1日11時48分に青森県東方沖の深さ73kmで $M 5.7$ の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、太平洋プレート内部で発生した。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では $M 5$ を超える地震が発生している。2012年5月24日には $M 6.1$ の地震（最大震度5強）が発生し、施設のガラス破損等の被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

領域 b 内の M-T 図及び回数積算図

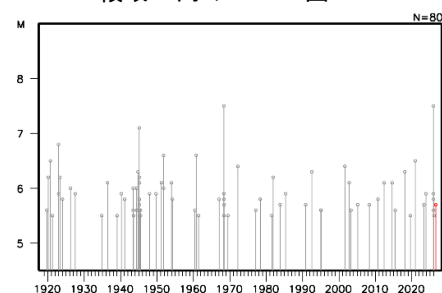


M-T 図のみ

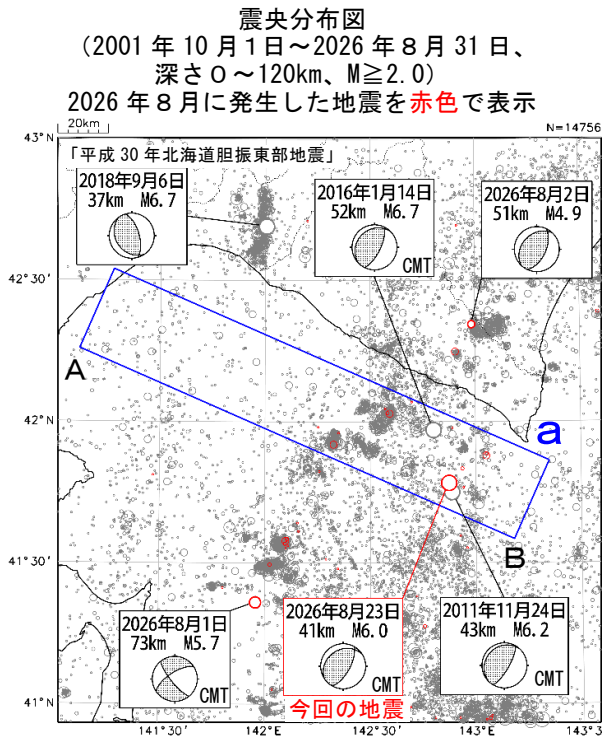


1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では2025年12月8日に $M 7.5$ の地震が発生するなど、 $M 7$ を超える地震が発生している。1945年2月10日には $M 7.1$ の地震（最大震度5）で死者2人、家屋倒壊2棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域 c 内の M-T 図



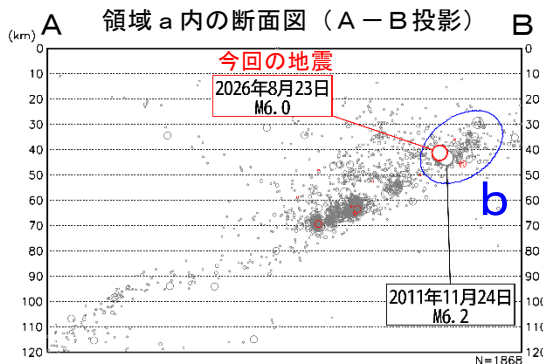
8月23日 浦河沖の地震



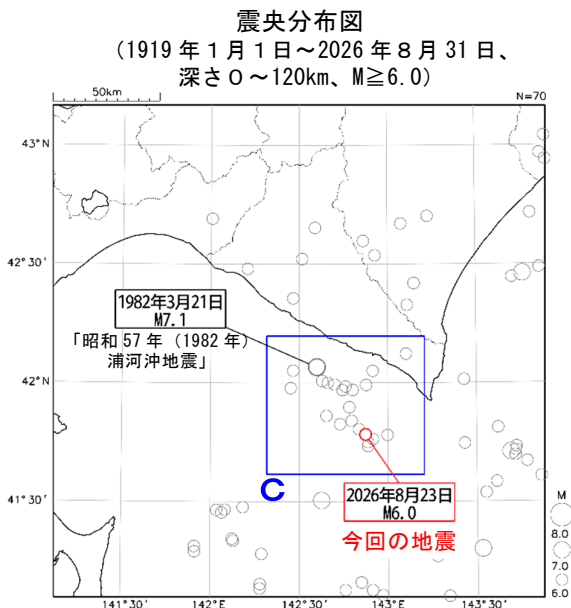
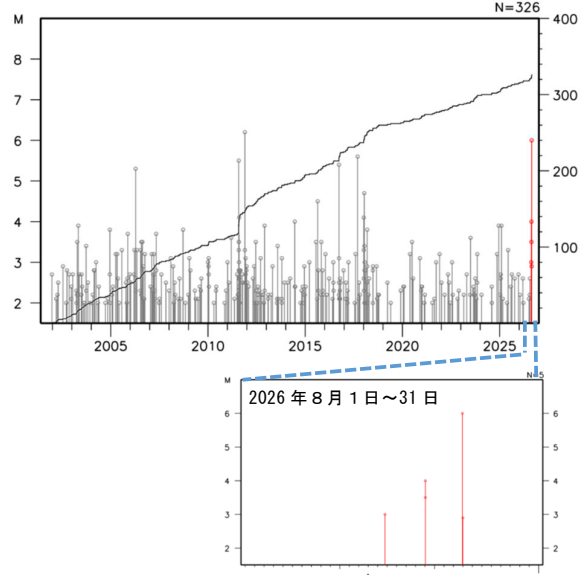
2026年8月23日22時44分に浦河沖の深さ41kmで $M6.0$ の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、 $M5.0$ 以上の地震が発生しており、2011年11月24日には $M6.2$ の地震（最大震度5弱）が発生している。

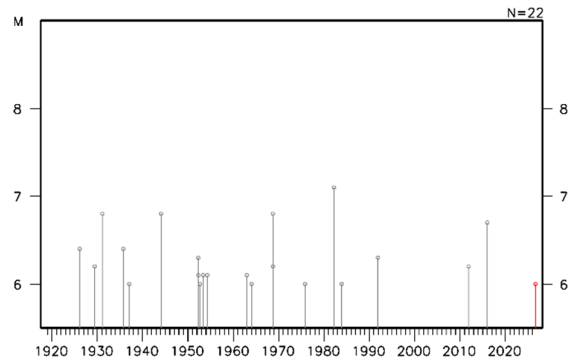
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、 $M6.0$ 以上の地震が発生している。1982年3月21日に発生した $M7.1$ （最大震度6）の「昭和57年（1982年）浦河沖地震」では、北海道浦河で78cmの津波を観測するなど、北海道と東北地方の太平洋沿岸で津波が観測された（「験震時報第47巻」による）。また、負傷者167人、建物被害210棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。



領域b内のM－T図及び回数積算図



領域c内のM－T図



【防災メモ】

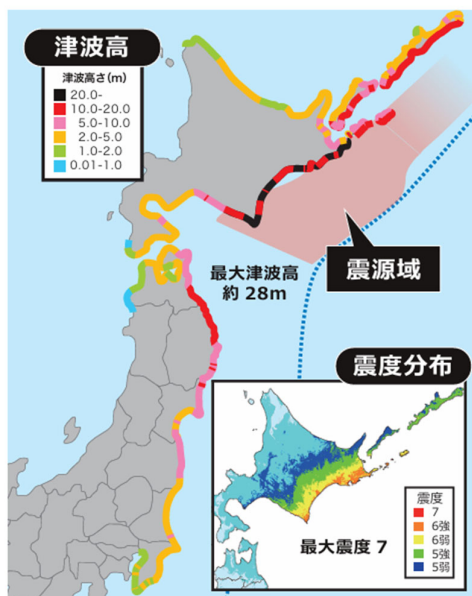
～千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震と 「北海道・三陸沖後発地震注意情報」～

○千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震

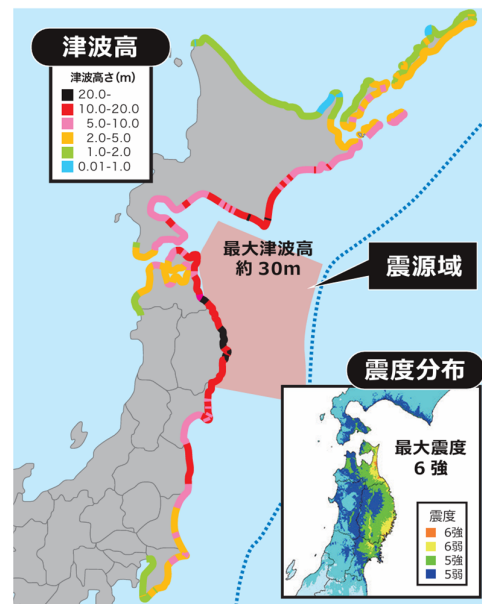
千島海溝・日本海溝沿いの領域では、過去に大きな津波を伴う巨大地震が繰り返し発生しています。津波の痕跡調査から、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖の領域では、平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の大津波に匹敵する最大クラス津波を伴う巨大地震が約 300～400 年間隔で発生したとされており、17 世紀に発生した大津波からの経過時間を考えると、最大クラスの津波を伴う次の巨大地震が切迫していると考えられています。

2021 年 12 月に内閣府が公表した被害想定では、この巨大地震・大津波が発生すると、死者数は全国で最大約 19 万 9 千人と想定されています。特に冬季に発生した場合、北海道では吹雪や積雪により避難に時間を要することや、屋外や寒い屋内での避難は低体温症のリスクが生じるといった積雪寒冷地特有の課題があります。ただし、事前の備えと迅速な避難を行うことで人的被害を大きく減らすことができます。

千島海溝沿いの地震



日本海溝沿いの地震



千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震で想定される津波と震度

○北海道・三陸沖後発地震注意情報

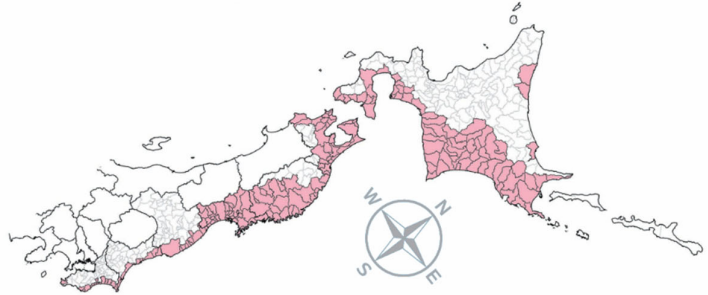
千島海溝・日本海溝沿いの領域ではモーメントマグニチュード (Mw) 7 以上の地震が発生した後、数日程度の短い期間においてさらに大きな Mw 8 クラス以上の巨大地震が発生する事例が確認されています。このような事例は、世界的には 100 回に 1 回程度で、実際に発生する確率は高くありません。しかし、一人でも多くの命を守るため、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖の巨大地震の想定震源域およびその周辺で Mw 7 以上の地震が発生した場合に、続いて発生する巨大地震（後発地震）への注意を促す「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表します。この情報は 2022 年 12 月から運用を開始しており、これまでに、昨年 12 月の青森県東方沖の地震と今年 4 月の三陸沖の地震の発生に伴い発表されています。

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表された場合に防災対応をとるべきエリア

北海道から千葉県にかけての広い範囲に及びます。

防災対応をとるべきエリアの基本的な考え方

- 震度6弱以上の地域
- 津波高3m以上の地域
- 地震防災対策の一体性から、防災対応をとるべきと考える地域



北海道・三陸沖後発地震注意情報発表時に防災対応をとるべき地域

この情報が発表された場合、直ちに避難をする必要はありませんが、防災対応をとるべき市町村にお住まいの方は、普段の生活を続けた上で、1週間程度は地震への備えの再確認、例えば家具等の固定、備蓄品の確認、避難場所・避難経路の確認、家族等の連絡方法の確認、また、津波浸水想定域にお住まいの方は、大きな揺れを感じたり津波警報を見聞きしたりした際に、すぐ避難できるような態勢を整えておくようにしましょう。また、防災対応をとるべき地域以外であっても、強い揺れや高い津波が生じる可能性はありますので、情報が発表された際には、平時からの地震への備えを再確認するなど、個々の状況に応じて後発地震に備えた対応をとることが重要です。

巨大地震が発生した場合に、北海道から千葉県にかけての広い範囲で想定される甚大な被害に対し、1週間程度、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備を。

枕元に靴等を置いて寝る



すぐに逃げ出せる
態勢の維持



非常持出品の
常時携帯



緊急情報の
取得体制の確保

崩れやすいブロック塀等に
近づかない



想定されるリスクから
身の安全の確保



日頃からの
備えの再確認

北海道・三陸沖後発地震注意情報発表時の防災対応

〇WEB サイト

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」(札幌管区気象台 HP)



<https://www.data.jma.go.jp/sapporo/jishin/kouhatsu.html>

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」普及啓発用動画(YouTube)



<https://youtu.be/Z3Zou0Z70V4>

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」子供向け動画(YouTube)



<https://youtu.be/ifDGXKntUik>